

6－9 松山観測所における地殻変動観測(4)

Observations of Crustal Movement at the Matsuyama Observatory

東京大学地震研究所 松山地殻変動観測所
Matsuyama Crustal Movement Observatory
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

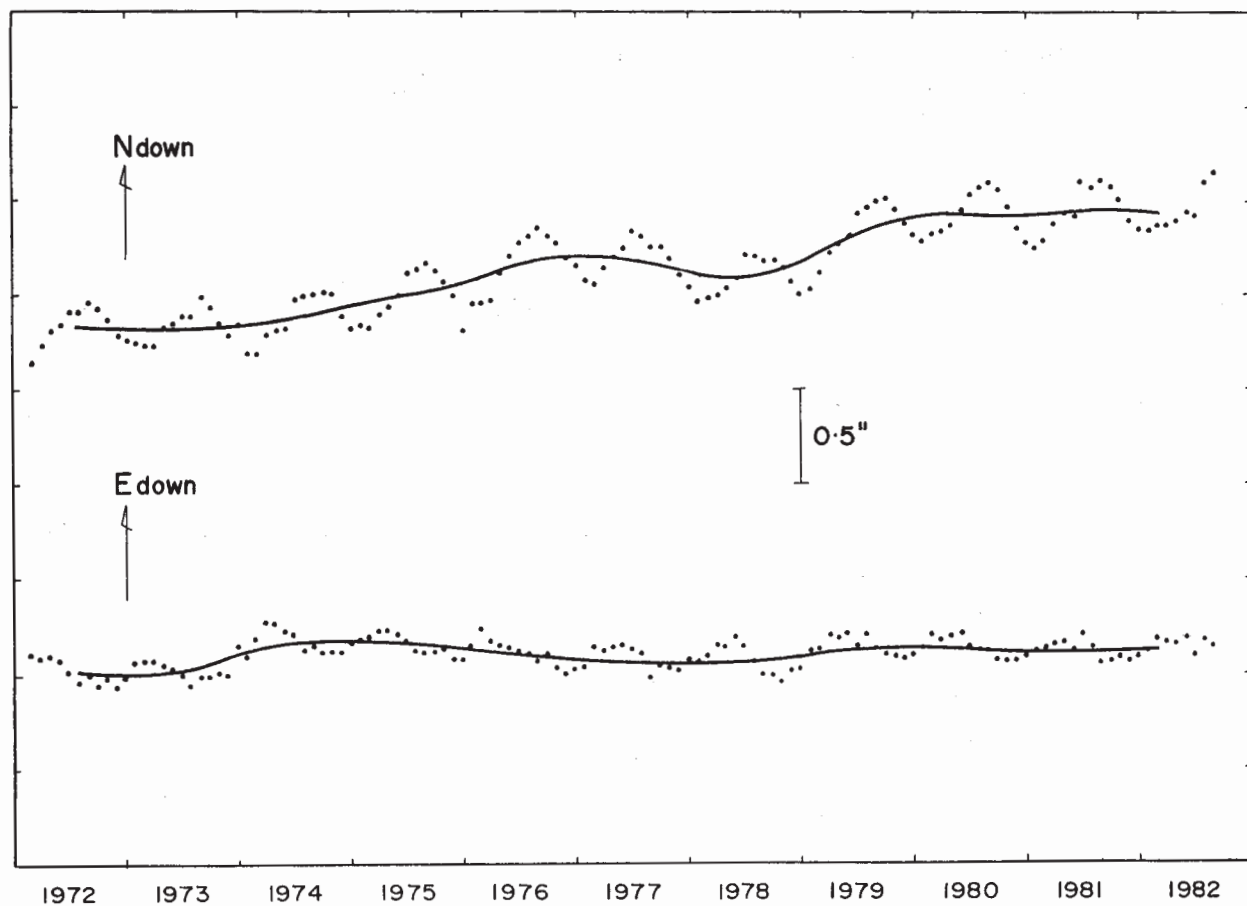
南海道地震（1946年12月21日）に引き続いて、四国各県の沿岸においては顕著な地盤沈下が進行了。この対策の一環として松山市の西郊にこの観測所が設置されて以来、水管傾斜計の観測が今日も続けられている。地震直後に激しかった北東下りの傾動は1958年頃にはおさまった。続いて北西下りの傾動となったが、これも1967年頃にはおさまった。1970～1971年には観測者不在のため観測が中断された¹⁾

N－S成分（NE－SW，NW－SE 両成分より合成）は1960年よりほぼ一定値を続けてきたが、1974年から再びN下りの傾動を示し、1977年までに約0.5"のN下りの動きを記録している。E－W成分は格別の動きを示していない。^{2) 3)}

その後、1974～1979年頃まで続いたN下りの傾動は収束し、今日まではほぼよこばいの状態を続けている。E－W成分についてはそれ以後も格別な動きを示していない。なほ、Fig. 1の中の黒点は傾斜変化の月平均値で、実線はその12カ月の移動平均値を示している。Fig. 2は松山観測所の平面図である。

参 考 文 献

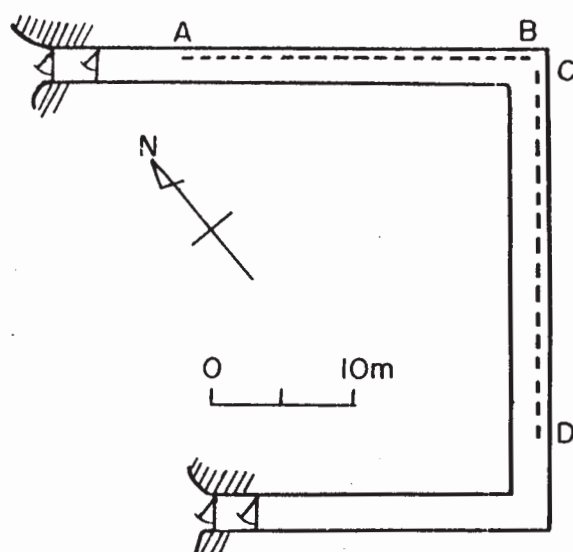
- 1) 松山地殻変動観測所：松山地方の地殻変動（概報），連絡会報，**14**（1975），95－100.
- 2) 松山地殻変動観測所：松山地方の地殻変動(2)，連絡会報，**18**（1977），120.
- 3) 松山地殻変動観測所：松山地方の地殻変動(3)，連絡会報，**22**（1979），202.



第1図 松山における傾斜変化

(水管傾斜計読取值からN S, E W成分を合成)の月平均値(・)と移動平均

Fig. 1 Ground tilts at the Matsuyama Crustal Movement Observatory. (monthly mean value in the NS and EW components(・) and 12-month running mean value(line)).



第2図 松山観測所観測坑平面図

Fig. 2 Plan of the Matsuyama Crustal Movement Observatory.